

技術士だより

(社) 日本技術士会九州支部冬季号<第74号>(平成20年1月15日発行)

巻頭言

防災プロフェッショナルとしての 活動を目指そう



九州支部 副支部長 甲斐 忠義
(建設・福岡)

新年おめでとうございます。本年もご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

日本技術士会の本部および北陸支部の防災支援グループは、2004年10月の中越地震、2007年3月と7月に相次いで発生した能登半島地震、中越沖地震の災害直後から被害調査や原因の調査に参加しています。

技術士会会員による公益事業参加活動です。ご承知のように(社)日本技術士会は、公益法人認定法で定める公益23事業のうち学術・科学振興、公衆衛生の向上、事故や災害の防止、地球環境保全・自然環境保護、国土の利用・開発・保全、国際相互理解の促進・開発途上国への国際協力、一般消費者の利益の擁護・増進の分野に取り組んでいます。これは、企業でいう「コンセプト(企業理念)」であります。企業は、コンセプトに従って自社のコア・コンピタンスを核として活動し、競争優位に立つために差別化、優位化させるように活動します。コア・コンピタンスとは、組織の中核的スキルであり企業の生命線であります。技術士会のコア・コンピタンスは、科学技術分野の全般にまたがった人材であります。今後技術士会会員は、防災プロフェッショナルとして、地域の防災・減災に関しての公益事業の活動に参加し、国民にベストソリューションを提供していかなければなりません。

我が国の災害対策は、災害予防、災害応急対策及び災害復旧、復興の各段階に応じて災害対策基本法及び関係法規によって推進されています。国や地方公共団体は、法に準拠して災害対策計画を策定しています。

しかし災害から安全・安心を確保するためには、行政による「公助」だけでなく、国民一人一人や企業の発意に基づく「自助」や地域の多様な主体による「共助」の取り組みが必要です。

これらの取り組みは、国民運動として活動を展開していく必要があります、国民一人一人の防災意識の向上と地域防災力の向上が必要です。技術士会の取り組む防災活動は、この国民的運動を支援していくことを目的としなければなりません。技術士会では、本部の防災支援委員会と各支部の防災委員会が活動しています。九州支部防災委員会は、市町村や自治会等に対して居住地域の災害危険箇所について緊急時の避難対策など防災に関する指導・支援を行っていくことを活動の目的としています。具体的には、九州が、過去に大型の台風や梅雨前線豪雨によって多くの死傷者を出していることから洪水、溪流、海岸災害を対象として取り組んでいます。各県地区では、現在のところ、佐賀地区会員が国土交通省の河川事務所と連携した地域の災害支援活動を行っています。これから活動を始めていく場合、いきなり市町村の防災担当に活動を申し入れるのではなく、技術士数人で、危険性の高いと思われる集落や自治会等を対象に選定し、知り合いや紹介を通じてつながりをつけ、住民と一体となった公民館活動から取り組みを始めた方が良さそうです。取り組み例としては、台風や梅雨期前などの河川氾濫危険箇所の点検活動やがけ崩れ危険箇所の点検などです。また多くの市町村では、防災ボランティアの登録を募集していますので、登録しておく事もお勧めします。防災プロフェッショナルとして、地域の防災・減災活動に活躍していただきますよう期待をしています。

「技術士法制定50周年記念事業の活動体験から」

小出 剛
(農業・福岡)



法制定50周年記念事業については、「各支部での記念行事を行い、その集大成行事を19年7月31日に本部（東京）で実施する事」が昨年9月決定し、各支部、部会での行事が行われた。

九州支部では、CPD委員会を中心とした支部一丸となって、支部内の趣旨徹底も含め、3回の行事を行ったが、特に第3回では、従来の趣向を変え、九州における産官学とマスコミ代表によるパネルディスカッションを開催し、技術士に関わる多方面からの意見・主張を求め、支部会員からのアンケートと会場での質疑応答によるコミュニケーションを図り、支部としての行事を終えた。特筆すべき初の試みとして、マスコミ界代表を招請、ディスカッションに彩りを添え、新たな視点を得たことは収穫だった。

昨年12月、1月、4月に開催したこれらの3行事のコーディネーターを務めた者として、また本部での7月報告会（集大成行事）及び11月の第13回西日本技術士研究・業績発表年次大会での報告を行った立場から、若干の感想を述べ、今後の技術士制度、技術士会のあり方についての参考に供したいと思います。

1. 支部・パネルディスカッションのテーマは、「外部から見た技術士のあり方並びに技術士の思い—技術士の社会貢献を考える—これで良いのか技術士は？」であり、

その第1部を「現状と問題点」、2部を「今後如何にあるべきか？」として進めた。

2. 会場とパネラーとが一体となり、あっと言う間の進行ではあったが、何と言っても、「技術士は高い次元からwhistle blowの役割を果たし、常に組織や社会に警告を発すべし、またその体制が組織に認知される事が肝要」とのご発言は際

立った。この外、「技術士よ、更に外に出（いで）よ！ 中高大学生への現場見学推奨、地域社会への積極的行動・発信を含め、関係社会からの相談受皿となる技術士会、技術士たれ！」も大いに注目された。

3. 上記のほか、基本とすべき技術者倫理や資格更新の必要性、CE→PEの諸問題、など

技術士の認知啓発に関する事項も真剣に議論された。このことは、7月31日本部行事での各支部・部会の報告でも類似していた、即ち「技術士の認知度が低い」「会員技術士の活躍の場が少ない」所謂会員のメリット不足等、現行運営の基本課題に対する一種の欲求不満の現れともとれ、反省後再出発の必要性が強調されたとも思える。

4. 記念事業の企画構成に関わり、コーディネーターを担当、3時間に及ぶディスカッションの音声記録、更にはCPD委員会、支部幹部諸兄との打合せ等を併せてPPTへの取り纏めに約半年を費したが、この期間に痛感した事項を申し上げてこの度の提言としたい。

- ① **会員拡大を最重点に！**：50年経過時の入会率が約20%の日本技術士会では、外部から相手にされにくい、過去の多大の努力・経験の上に、本部・支部の緊急課題として更に取組むべき。支部の協賛会員問題でも会員拡大に有利な方向を講ずべきと強く考える。

「会員各自の周囲には登録技術士3～5名」の确实存在を目標に、全員で努力したい。

- ② **有言善行！**：技術士の認知啓発、活用促進、会運営に関し、具体案を出し合う会員窓口（HP等）を設け、各部会・委員会等でも協議し、適合した善行を一步一步進めたい。

平成20年の新年を迎えて

九州支部長 光岡 毅
(建設・福岡)



平成20年の新しい年を迎え、会員皆様におかれましては、新たな決心をもち、新たな一步を踏み出そうとしておられます。まことにめでとうございます。

我々技術士は、科学技術全般にわたる高等な能力を保持する資格をもって「科学技術創造立国」の実現に向け、その中核者としての役割を担い、社会に貢献する責務を負い、持っている技術能力を全うしながら日夜がんばっているところであります。

国家資格である技術士の資格は、民間資格と異なり、単に能力の証明であり、これを持って生活の糧とするためだけのものではありません。国民が制定した国家の資格であり、国民、社会に対し、科学技術に関して安心・安全の保全に寄与することが課せられており、その責任を負わされていると思います。国民は、科学技術を国民の為に専門的な立場からより安全・安心に活用してもらいたいことからこの法律を作ったものですから。

これまでに企業の不祥事が相次ぎ報道されています。それは科学技術を用いて生産をして国民に便宜を図り国民生活を豊かにしてきた産業が、技術の基本である生産管理、品質管理を忘れ利益追求型の生産活動に走った結果であります。これに関与する技術者が経営の方針に流され技術者としての本来の方向を忘れ、失ってしまった結果でもあります。資格を持った技術士はこれらに警告を発し、生産活動を正當に実施するよう技術指導をしてゆかなければなりません。これら不明の技術者に対し生産管理・品質管理は何たるかを厳しく指導してゆかなければ技術士の責務は果たせないものと思います。このための行動を起こさなければなりません。

しかし、技術士個人個人では何も出来ません。そこで技術士会に入会して初めて行動を起こすことが出来ます。技術士の資格を取っただけで何の活動もしないでいることでは技術士としての資格を発揮しているとはいえません。そうすると技術士不要論につながります。

技術士は、技術士会に参画して本来の活動が可能となり、その責任を果たすことが出来るのです。

「(社)日本技術士会」に未だ加入されていない技術士の方々には目を覚まし入会して頂き共に活動をして行きたいものです。

技術士が集い行動するため、(社)日本技術士会九州支部は新しい年を迎え、新年度の施策として以下のことを実施して技術士の活動の環境を整えて行く所存であります。

(技術士会として九州支部が行うべき項目)

1. 会員の増強

- 会員の勧誘と増強
- 官庁・企業等の内部において技術士の集まりが出来ているのでその組織との連携
- 平成19年度末での協賛会員制度の廃止
- 官庁現職を対象に新たな九州支部限りの会員制度の設立

2. 技術士活動の促進

- 部会の組織体制を見直し、個人の専門技術力の向上のみを目的とするものは他の学協会に任せ、出来るだけ縦割りのものを排し、目的が明確なもの（意味がわかりにくい感じがしますが。目的が似ているものは統合するとの意味でしょうか）に編成替える。
- 地区組織を活性化する。他部門の集まりとして推進する（意味がわかりにくい感じがしますが。）

3. 会員との連絡体制の強化

- 従来からの電子メールによる連絡網、技術士だより、ホームページの強化
- 支部名簿の確定版の作成及び名簿の発行（名簿の発行は行うようにしますか）

4. 対外事業の推進

- 地域の中小企業への生産管理・品質管理等の技術指導と出前協力
- 科学技術教育への積極的な参加
- 防災プロフェッショナルとして地域の防災力の向上に寄与する

(まとめ)

本年は、「技術士よ外に出よ！」といった掛け声を具現化することを九州支部の目標としたい。

本部近況（理事会等報告）



(社)日本技術士会 理事・九州支部副支部長
是永 逸生（機械、総合技術監理・北九州）

前号では7月に開催された平成19年第2回理事会までを報告しました。本号では9月に開催された平成19年度第3回理事会と、11月に開催された平成19年度4回理事会の概要を報告します。さらに10月に福井県で開催された第34回技術士全国大会と11月に神戸で開催された西日本技術士研究業績発表大会の概要を報告します。

報告1 平成19年度第3回理事会

（開催日：平成19年9月13日）

《審議事項》

1. 実行委員会委員の継続再任について
事業委員会が継続の必要を認める委員として「修習技術者支援実行委員会委員」の継続再任期限の延長を申請して承認された。
衛生工学石田佳子氏
2. 委員会委員の異動について
 - (1) 常設委員会（広報委員会、業務委員会）、実行委員会（修習技術者支援実行委員会）の委員が変更
 - (2) APECエンジニア審査委員会
委員長；西野文夫委員長逝去に伴い大中逸雄（阪大名誉教授）に変更
委員；【部会長変更による】機械（盛山保雄）、電気電子（河上邦雄）、化学（松浦一雄）、建設（吉田保）、情報（嶋田弘僧）、応用理学（町田光三）

《報告事項》

1. 技術士法制定五〇周年記念シンポジウム開催結果報告
 - 1) 本シンポジウムは「技術士について考えるー過去・現在・未来ー」をテーマに7月31日に273名の参加の下で開催された。
◎午前の部の支部・部会報告では九州支部からは小出剛先生が発表。
 - ◎午後の部は小宮山東大総長の基調講演「知識の構造化と技術士への期待」やパネルディス

カッションが行われた。

2) コメントの概要：

- ◎支部・部会報告では技術士資格を業務独占資格に、との意見が多かった。
- ◎パネリストの意見では（ア）名称資格のままでいいのではないか。（イ）業務独占資格を考える前に技術士がどういう人材なのかを広報すべし。（ウ）他省庁に売り込みに行くことを考えるべきだ。（エ）技術士会委員の最大の特徴は品質の高さではないか、これのアピールを考えるべき

3) パネルディスカッションの要約あり、記念誌はH20年1月発刊予定である。

2. 訴訟の結審について

日韓技術士会への参加費用の問題⇒省略
（資料は九州支部に保管）

3. 平成19年度技術士第二次試験実施状況報告

	申込者数	受験者数	受験率
H19年度	30,864	23,512	77.9%
JABEE修了者25名			

H18年度	31,499	19,674	67.9%
-------	--------	--------	-------

4. 平成19年度技術士第一次試験受験申込状況

	申込者数	
H19年度	34,142	▲6500 (新規▲4500 リピータ▲2000)
H18年度	40,685	

5. 第34回技術士全国大会（北陸・福井）準備状況報告

開催日：平成19年10月17日⇒省略

報告3 参照

6. 技術監査制度について

高橋修会長が提案しているもので、『技術士会が社会的な問題に対してモノ申しているぞ』という雰囲気を出し、職業倫理の重要性が叫ばれる今、全分野で技術士の役割として、技術に関する監査制度を導入する仕組みを作りたい。

7. 常設委員会等報告

《倫理委員会》活動の柱は①技術士倫理の啓発、
②技術士倫理規範の点検
《政策委員会》公益法人制度改革に向けた諸施策、
定款変更、活性化と会員拡大
《財務委員会》予算編成に会員増強対策、支出管理を事業委員会と連携
《事業委員会》5小委員会設置、「持続可能社会形成実行委員会」設立、法制定50周年記念誌作成
【1月号に掲載】、日韓技術士会議【2007.10.1、ソウル】

《広報委員会》会誌位置づけ、ホームページの活用
《業務委員会》技術士活用促進策の検討、技術監査制度に議論できるたたき台作成

《科学技術基本計画支援実行委員会》科学技術コミュニケーター、理科支援特別講師

《報酬委員会》報酬額決定は前会も結論出ず、状況分析からやる。

《国際特別委員会》FEISEAPの動き、APECエンジニア審査委員会メンバー変更中

《会員拡大・技術士活性化推進特別委員会》実績を上げる、退会者防止、JABEE認定校対応、企業内技術士制度活用、中高年者への受験対応

8. 会員・準会員等の推移

H19年7月；会員数12,345名

(H19年5月：12,222名)

《その他》

1. 理技術者「名義借り」問題について

沖縄県内登録業者131社中、40社45部門の登録取り消し（消除の措置）

業務実態を伴わない「名義貸し」など企業の法令違反に対する協力行為

日本技術士会員は法令順守、技術者倫理の重要性を今一度強く認識すること

2. 旧曾木発電所長寿レンガサポーター募集について

元新日本窒素肥料(株)曾木発電所の保存工事（鹿児島県大口市）

寄付受付期間：H19.9.1～H19.11.31

3. 第13回西日本技術士研究・業績発表年次大会

日時：H19年11月10日⇒省略

【報告4】 参照

【報告2】 平成19年度第4回理事会

（開催日：平成19年11月15日）

《審議事項》

1. 慶弔規定の制定について

従来、会員の慶弔に関わる規則としては、「慶弔金規則」のみが制定されていたが、会員活動の活

性化に資するため、このたび慶弔に関わる内容も盛り込み、「慶弔規則」として新たに制定する。第2章弔慰の内容は従来と不変

2. 定款第10条第3項による退会について

2年間の会費未納者 47名が退会となった。

3. 委員会委員の異動

生涯教育推進実行委員会、中小企業交流実行委員会の委員が変更

《報告事項》

1. 平成20年度事業計画及び収支予算検討状況について

1月に理事会承認、3月総会で決定のスケジュール

技術士法制定50年で論議し検討した成果をH20年度事業計画に反映させる。

社会に向けた情報発信を意識して推進する、現在はたたき台を作成した段階

2. 記念事業のまとめ『技術士制度の現状と将来への取組』

50周年特別小委員会が本記念誌のまとめとして、報告された内容をベースに、『技術士制度の現状と将来への取組』について4ページにまとめた。

目次は次の5章

1. 技術士制度の現状

2. 技術士制度発展のための課題

3. 技術士制度の可能性

4. (社)日本技術士会が行うべき将来の展開

5. 弛まぬ努力の必要性

3. EMFエンジニアの登録開始について

APECの他にイギリスや南ア等を加えた別組織のEMFエンジニアの登録制度がH19年度中にスタートする。EMFは技術分野に分かれていない。二国間協議が必要

最初はAPECエンジニア登録済の方からスタート。

4. 規制改革会議への「技術士業務拡大」に関する要望提出について

前回の理事会で会長が提案したものである。11月13日に規制改革会議に提出した。

要望事項は次の2件

(1) 有価証券報告書の中の研究開発・生産設備関係等の技術関係の項目に係る監査制度の導入及びこの業務に技術士の活用

(2) 水道施設布設工事監督者資格に技術士（上下水道部門）資格を追加

5. 第37回日韓技術士会議報告

9月30日～10月2日ソウルで開催⇒省略

6. 政策委員会運営の手引き

委員会規則との整合性がなかったので全面見直しするとともに、今年の5月のまとめとも整合させた。

7. 平成19年度第二次試験（筆記試験）の結果

【合格者数（合格率％）】

	一般	総監	合計
H19年度	3,848(19.0%)	772(23.5%)	4,620(19.6%)
H18年度	2,613(16.6%)	898(22.7%)	3,511(17.8%)

8. 平成19年度技術士第一次試験受験状況

受験者数（適性科目）

H19年度	34,150	▲6500
H18年度	40,689	

9. 公益法人制度改革の動向

H14年に公益法人制度の取組みが閣議決定、
H20年12月新制度の施行

技術士会は公益認定法人をめざすが、技術士会としては動き出していない。

今までの活動で問題ないか。

10. 常設委員会等報告

《倫理委員会》3号会長表彰推薦受付（12月まで）、

「倫理要綱有識者グループ」設置

《政策委員会》公益法人認定に努力、外部に見える形で社会貢献、学協会との連携強化

《財務委員会》国債運用、会員拡大へ退会者抑制、JABEE向け支出増、受験生減

《事業委員会》50周年特別小委員会のまとめ、「持続可能社会形成委員会設立検討」

防災支援委員会；東京都と協働、生涯教育推進実行委員会、中小企業問題研究会

《広報委員会》月刊技術士1月から新表紙、冊子小包、外部配布先の拡大、目玉企画

《業務委員会》技術士業務拡大への提言、技術監査制度に関する調査

《報酬委員会》技術士報酬額の見直し要

《国際特別委員会》FEISEAP（アジアンアコード・ワーキンググループ）総会でアジアンアコード制定計画中

《会員拡大・技術士活性化推進特別委員会》入会者拡大、退会者防止、二次試験受験者拡大、技術士・技術士会の活性化施策

11. 会員・準会員の推移

H19年9月会員数：12,376名

準A：10名 準B：3,241名

（H19年7月：12,345名、H19年5月：12,222名）

報告3 第34回技術士全国大会（北陸・福井）

（開催日時：平成19年10月16日～19日）

開催日：H19年10月16～19日

場 所：福井県福井市 フェニックスプラザ

大会テーマ：「科学技術が育む地球の未来」

～美しい緑、水辺、大地とともに～

11月16日：前日行事（福井県国際交流会館）

①青年技術士の集い、②第4回技術者倫理研究事例発表大会、③第3回全国防災連絡会議、④全国大会併設機械部会、⑤永平寺参籠、⑥ウェルカムパーティ

11月17日：大会（フェニックスプラザ）

- 1) 分科会：第1：「省エネルギーのこれから」、
第2：「健康長寿と環境の為に新技術」、
第3：「大規模災害と危機管理」、
第4：「技術者倫理と継続研鑽」、
第5：「環日本海大交流を目指して」

2) 分科会報告、記念式典

3) 記念講演：「原子力カルネッサンス時代を迎えて」
前福井大学学長児嶋真平

4) 交流パーティ（ユアーズホテルフクイ）

【次回開催地】

「第35回技術士全国大会（島根・松江）

担当支部：中四国支部

日時：2008年10月17日～20日

場所：島根県松江市 松江しんじ湖温泉

大会テーマ「神話の国で語る未来技術の創造」
環境の地域再生へのメッセージ

記念講演「たたら製鉄の技と精神」木原明（玉鋼製造：国選定保存技術保持者）

報告4 第13回西日本技術士研究・業績発表年次大会（近畿支部・神戸）

（開催日時：平成19年11月10日）

開催日：H19年11月10日

場 所：神戸市ハーバーランド・産業振興センター
九州、中四国、近畿の西日本3支部の研究業績発表年次大会に、中国上海から代表を招いて「2010上海万博に係る日中科学技術シンポジウム」が併設された大会である。

1) 分科会

第1分科会：技術士法制定50周年記念行事「技術士の過去・現在・将来を考える」

第2分科会：南海・東南海地震に備える「防災・減災・復興の為に技術コラボレーション」

第3分科会：日中ビジネスモデルの研究「成功するビジネスモデルと科学技術の交流」

政策委員会報告



政策委員会委員 山口 一弘
(建設・福岡)

はじめに

私は前政策委員会委員小出 剛委員の後を受け、平成19年6月より委員の委嘱を受けた山口です。委員会運営に関する規則第3条によれば、任期は2年となっていますので、2年間よろしく申し上げます。なお、私自身まだ政策委員会の内容をよく把握していませんので、参考までに以下これまでの概要を、小出委員から引き継いだ資料を基に紹介します。

I、政策委員会の所掌事項

政策委員は現在、吉田委員長（電気電子部門）を含め26名の委員と内6名の幹事で運営されています。「委員会運営に関する規則」第13条別表1によれば、政策委員会の所掌事項は、

- 1、本会の基本運営にかかわる事項の企画、立案
 - 2、組織、役員選挙、名誉会員などの基本制度の検討
 - 3、定款等の諸制度の管理（制定、改廃）
 - 4、支部の運営に関わる事項の企画、立案
 - 5、その他、他の常設委員会の所掌にない事項
- となっており、技術士会にとって大変重要な委員会であることがわかります。

II、これまでの検討事項

引継ぎ資料により、これまで前期委員会での検討された事項の概要を示すと、

1、基本事業等検討小委員会、2、代議員制度検討小委員会、3、地域組織検討小委員会、4、定款等諸規定検討小委員会、の四つの小委員会に分けられ検討されているが、結論は出されていないで、さらに今後検討するとなっている。おのおのの概要は以下のとおりです。

1、基本事業等検討小委員会

基本的な事業は大別して、①技術倫理に関する事業、②専門技術に関する事業、人材育成（技術者教育支援、理科教育支援）に関する事業、④社会貢献

に関する事業、⑤技術士業務の開拓に関する事業、⑥国際交流に関する事業、がある。今後これらに関してさらに検討をしていく必要がある。

なお、当委員会でシンボルマークが決定され、バッヂも作成されていることは、皆様ご承知とおります。

2、代議員制度検討小委員会

現在会員数が1万2千名を超えており、今後の更なる会員拡大を考慮し、代議員数200～250名、選出方法、任期2年等の案が示されている。

現在、公益法人制度改革における公益社団法人の具体的な認定要件等の明確化を待って、その詳細の規定化の進捗にあわせて代議員制度導入の可否を最終的に判断することとしている。

3、地域組織検討小委員会

本部、支部、県単位組織を3層構造とし、県単位組織を設置することにより、地域に密着した会員活動の活性化を図ることとしている。具体的には、各支部の事情等を勘案し、引き続き検討することとしている。

4、定款等諸規定検討小委員会

社会情勢の急激な変化に対応して、諸規定の見直しは焦眉の急であり、①基本事業見直しおよび公益法人改革に対応した定款、細則等諸規定の見直し、②諸規定間の体系および整合等の見直し、③委員会に関する規定の策定等現行規定に関わる課題の検討、④顧問・参与に関する規定の検討がなされた。今後も引き続き必要事項の検討がなされていくものと思われます。

おわりに

今期はこれまで、8月2日に第1回、10月4日に第2回が実施され、前期政策委員会の活動報告、部門・部会検討特別委員会最終報告、政策委員会運営の手引きの改正案、慶弔規則の改正案の検討がなされました。次回は来年2月19日開催の予定であります。

平成19年度第3回九州支部CPD(A部門)報告



CPD委員会主査 久保川孝俊
(建設、総合技術監理・福岡)

10月27日(土)、福岡商工会議所にて九州支部主催による標記CPDが実施され、90名の参加者が次の4題の講演を熱心に聴講されました。

① 「ITC(情報通信技術)と社会生活」【A-8】

跡部 康秀先生(福岡市総務企画局情報化推進室課長、技術士:電気・電子)

② 「開発論(未来を拓く新製品開発)」【A-6】

柳 謙一先生(九州大学産学連携センター客員教授・工博、機械)

③ 「二重回転羽根車による水力発電及び風力発電に関する新技術」【A-4】

金元 敏明氏

(九州工業大学工学部 教授・工博)

④ 「地域環境力と科学的知見」【A-2】

小野 仁氏(㈱アーバンデザインコンサルタン
ト取締役技師長、技術士:建設・応用理学)

講演①では、公衆・固定電話から携帯電話の推移、ブラウン管からプラズマ・液晶テレビ及びアナログ地上波からBS・地上波デジタルへの変遷、ビデオ・オーディオ等周辺電化製品の変化等を図示され、ICT社会の到来を説明された。また情報を埋め込んだ“ICタグ”の活用例を、食品や薬品の例で示し、インターネットの浸透によるユビキタスネットワーク社会の未来を、分かり易く解説して頂きました。

(“蟻とキリギリス”の紙芝居を挿入し、キリギリスの生き方に対する国民性による解釈の違いなども紹介されるなど、楽しい講演でした。)

講演②では、技術導入から自社技術への展開へと移行した戦後日本の研究開発の動向を示され、製品固有技術について解説された。また製品と商品との“死の谷”への対応に、「概念設計」の必要性を明示され、製品のための工業化、工業化のための開発研究、基礎研究へと展開していく手法を、太陽熱発電開発経緯を例に説明され、開発手法や開発論の要点を懇切に紹介された。また創造性の訓練として、ものを見たら3つを連想する訓練をしたなど、技術

士に原点に戻ることも示唆された。

(現役の技術者に聞かせたい講演でした。)

講演③では、関門海峡の激流を見て二重相反転羽根車の開発に取り組まれたお話から始まり、試作機の負荷特性や発電特性を実証され、小型化、キャビテーション防止、外部に対する反作用がない事などを検証された事を、機械理論を交え説明して頂きました。また水力・風力発電は基より、ポンプ、マイクロファン、更にはターボファンエンジン等までの性能向上についても分かり易く説明され、有効性を実証されつつあり、実用化も近いと思われます。

(途中、ゴルフボールのディンプルやボールの縫い目の意味・ホバリング中のヘリの重量などテストがあり、参加者は緊張しつつ聴講しておられました。)

講演④では、日本の地形や気候など国土環境の多様性から国内の生物の多様性をデータで示し、自然との共存により育んだ日本の教育・文化の喪失の危惧を指摘された。また、人口の増加、種の絶滅速度、世界・日本・福岡の平均気温の推移などから、自然再生への取り組みへの必要性を言及され、環境基本法に基づく国民の責務とその行動には科学的知見が必要であり、これには社会的地位と信用を有し且つ科学的知見を有する我々技術士の参加が必要である事を力説され、技術士としての行動を明確にして頂きました。

(やはり、我々も何らかの行動を起こさないと手遅れとの示唆を受けました。)

【お知らせ】

支部第4回CPD(A部門)は、平成20年1月26日(土)の予定です。

なお現在、九州支部ではホームページでCPDその他の行事や情報を紹介しております。支部ホームページから諸情報を取得されるとともに、CPDの参加申込も、支部ホームページから出来ますので、本部ホームページからではなく、支部HPから申込をお願い致します。(以上)

JSTの活動概況について



業務開発委員会副委員長 末松 正典
(機械、総合技術監理・北九州)

1. JSTの沿革

JSTは(独)科学技術振興機構の略称である。科学技術情報の提供をサービスする日本科学技術情報センターと、新技術の創成を目指す新技術開発事業団(その後新技術事業団)が1996年に一つになった文部科学省所管の組織であり、2003年10月独立行政法人となった。

2. JSTの使命と目標

【使命】

我が国のイノベーション創出の源泉となる知識の創出から研究成果の社会・国民への還元までを総合的に推進する。また、その基盤となる科学技術情報の提供、科学技術に関する理解増進、戦略的国際活動等を推進する。

以上を使命に掲げて取組んでいる。

【目標】

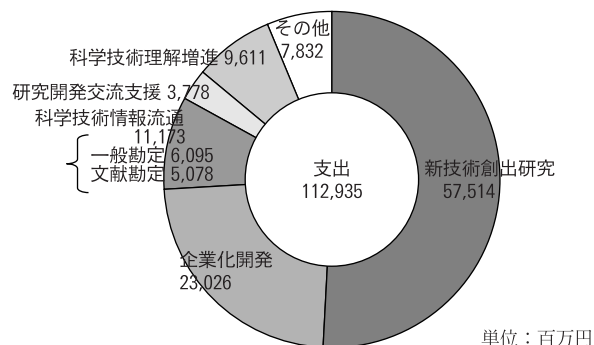
科学技術基本計画(H18.3.28閣議決定)に基づいて、H19.4.1から5年間にわたり、以下の5項目の中期目標を設定した。

- ①新技術の創出に資する研究
- ②新技術の企業化開発
- ③科学技術情報の流通促進
- ④科学技術に関する研究開発に係る交流・支援
- ⑤科学技術に関する知識の普及、国民の関心・理解の増進

3. 事業予算

総額はH17年度1125億円、H18年度1134億円の実績、またH19年度は1129億円の予算であり、最近ではほぼ一定で推移している。

事業費の割合は、下図に示すように、研究支援事業の一環として、上記の①に50%、②に20%、研究支援事業以外の事業として③～⑤に残りの30%が活用されている。



4. JSTの組織

JST本部は東京に設置され、3つのセンターと3つの事業本部、及び1監査室からなる。その他に特長的なものとして、日本科学未来館(館長:毛利衛)を運営している。

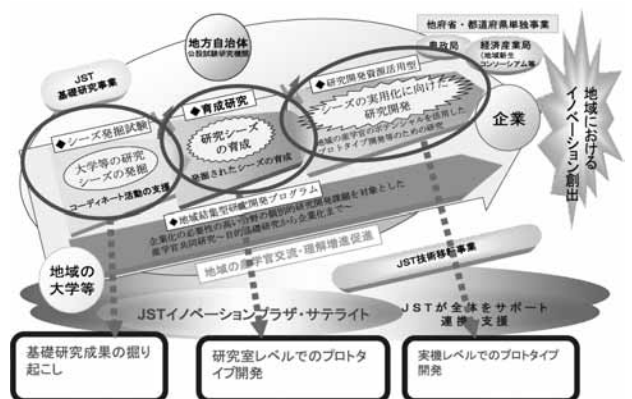
一方、日本全国に8つのプラザ(JSTとして建物を保有)と、8つのサテライト(建物は大学等から借用)を設置し、地域に密着した活動が行えるよう配慮している。

JSTは前述の設定した目標の①②を対象に多様な研究支援事業を準備しているが、その件数としては、本部は約15件(地域向けを含む)、地域は約3件、合計約18件となっている。

5. 地域イノベーション創出事業について

全国16箇所に展開しているプラザやサテライトは、各地域の自治体、他府省庁、大学等の研究機関等と、またJST本部とも連携を図り、入口側となるシーズ技術の発掘から、出口側の企業化までの展開を円滑に行うことにより、地域におけるイノベーション創出を目指している。

この目的を実現するために、各地域では下図に示すように、シーズ技術の掘り起しから、実用化に向けた研究支援事業を準備している。



技術士として活躍できる場はこれら事業のコーディネートや技術の評価等があり、また、実際そういった活動をされている方もおられる。

6. 倫理規定について

(独)科学技術振興機構法により、名称使用制限、秘密保持義務などが規程され、規程違反した場合は罰則も明記されている。この観点からすると技術士法と同等の倫理規程になっており、JSTはその遵守に努めている。

((独)JSTイノベーションプラザ福岡科学技術コーディネータ)

平成19年度 技術士第一次試験・ 福岡試験会場業務終了に伴う報告等

支部試験管理委員会 委員長 齊藤 健男
(建設・福岡)



技術士第一次試験は、例年10月の（体育の日）に行われ、今年は8日に実施された。準備作業及び福岡試験会場の状況について、多少の雑話を交え、また、前後しながら報告する。

(1) 受験者の動向について：平成12年の技術士法改正の影響が顕著に出始めたのは、技術士受験のためには技術士補の資格が必要になったことによる。その動きは平成16年度の頃まで続き、技術士補資格を保有していない技術士と本来の技術士第一次試験の申込み者との合計数が15年度にピークとなり約6万8千人に達し、その結果16年度では可成りの数の技術士が技術士補の資格を取得したと考えられる。そして平成17年度辺りからは、初めに第一次試験を受験する申込者が多勢を占めるようになってきたと判断される。

福岡試験会場においては、平成15年度から九州産業大学及び西南学院大学のご協力をえて二つの試験会場の確保ができ現在も継続されている。

- (2) 施設使用等の打合せ・協議：両大学での打合せ協議は、8月中旬～9月初旬の間に実施した。
- (3) 試験会場設営では、前日7日に両試験会場とも昼間の別途・国家試験のため、設営の先行準備は夕刻から夜間にかけて実施した。D1では、試験室(3教室)の準備の実施。次表に要員配置を示す。

施設名	本部長	総括	本部員	本部付	本部補助
D1	1	1	2	1	7
D2	1		3	1	1

D1：17.00～20.00時、D2：18.30～19.30時

- (4) 平成19年度の福岡試験会場及び全国試験会場集計の受験申込者数状況を次表に示す。

福岡	D1	D2	計(=D1+D2)
	1,424名	2,357名	3,781名(前年比81.5%)
全国	全国・試験場数：12箇所		34,150名(前年比83.9%)

- (5) 次表に福岡試験会場の試験本部及び試験監督の関係者の実施体制を示す。今回は、試験監督員希望者の一回目の調査中で、緊急的に二次試験の試験監督員を主体に編成し期限内に終了できた。

施設	本部長	総括	本部員	主任監督	監督	本部付	本部補助
D1	1	1	2	11	26	1	12
D2	1	(1)	3	21	42	1	14
計	2	1	5	32	67	2	26

- (6) 試験管理上の反省点と今後の対策：試験終了の翌日、西南学院大学の施設管理会社の「(株)キャンパスサポート西南」の担当者の方から支部事務局に電話があり、技術士会には今後施設供与を許可しないこともありうるとの厳しい叱責があった。その主因は試験終了後の清掃作業中に、4号館各階の便所のゴミ箱に廃棄された煙草の吸殻が発見され、出火も起こりえたということにあった。担当者のご都合で直ちに外向することはできず、その間に支部長、是永副支部長(D2本部長)及び試験センターの後藤氏(D1・D2総括試験監督員)に上記状況を報告した。齊藤と事務局長は翌日午後に担当者のもとへ外向し、指定外箇所での喫煙行為を先行防止できなかったことをお詫びし、早急に管理上の見直しと今後の管理方法について厳しく対処することを申し上げ、その結果をご報告する旨を申し上げた。担当者の方からは、「技術士試験の受験者は、平均的にレベルの高い人達ではなかったのですか」という主旨の話があった。齊藤は再度、許可を得て状況を調査し、また技術士試験センターによる各試験会場での喫煙状態調査を時間を要するが実施することもお話した。以後、10月末日に後藤氏とも打合せのうえ、担当者のもとに外向し、喫煙対策の検討案を提出・説明し、センターでは、継続して検討されていることも申し上げている。センターでは早々に来年度の受験票に喫煙上の注意事項を記載することを内定した由。今後も真摯に対応することになっている。

- (7) 現在、支部では第二回目の試験監督員の希望者調査を実施中です。来年度からは試験監督員希望者リストを基本的に活用することになっている。調査の不明点については支部事務局にお問合せ下さい。

部会報告

第一部会技術研修会

第一部会研修会

第一部会長 黒江 浩
(機械・福岡)



第1部会では、去る平成19年8月25日、九州支部会議室で研修会を行なった。

研修会の内容は下記の講演2題で機械、電気部門より各1題ずつ行なった。

演題1. ボイラ・タービンにおける評価されなかったトラブルの事例

電気・電子(総合管理)部門

増永 秀人

と題して発電用ボイラ・タービンの水管壊破事故について増永氏の事故体験について説明があった。異常の兆候が明らかである各種の検査報告結果が有効に評価されず、ボイラ重大事故につながった体験の紹介があった。

タービン復水器海水リーク真空低下によるトリップ1週間後復水器修理完了、挿入10日後増負荷時に爆音と共にボイラドラフト振切れ、ユニット手断直接原因は復水器リーク缶水への海水多量混入→ボイラ水管内部腐食→水管壊破であり、間接原因は水管損傷状況に10日間の劣化とは考えられない状況が認められたため過去の各部検査結果の再調査を行なった。長期にわたるボイラ、タービンの多数の報告にボイラ水管愛撫での異常を示すものが見出された。いずれも偶発的な現象、またはたの部位とは関係のない現象として結論付けられていた。

また事前に受領した他所の事故事例は放置されたままとなっていた。また、運転状況の変化原因の検討、現状にあった操作手段の改定も不備であった。結果的に、復水器誤操作が各部の経年劣化を一時に顕在化させた。

反省として各種検査結果はユニット全体の視点で、構造、材料、化学の総合的に評価しなければならない。

運転操作は現状にあった安全な手順で行なわなければならない。

演題2. 三菱スーパーヘリクロスギアについて

三菱電機FA産業機器(株)取締役技術部長

工学博士 牟田義文

と題して下記次第で三菱電機FA産業機器(株)の牟田氏に講演を頂いた。

新しい歯車を採用した直交ギヤードモータについて

1. はじめに
2. 直交歯車に要求される仕様
3. 接触状態解析
4. タグチメソッドによる検証
5. スーパーヘリクロスの特徴
6. おわりに

日本国内における直交ギヤードモータの比率は年々高くなっている。

直交ギヤードモータには所謂直交歯車が必要となるが、一般的にはハイポイド歯車、ベベル歯車、ウォーム歯車が使われている。

国内ではコンパクト性からハイポイド歯車が主流である。ハイポイド歯車は組立て時の調整が必要であり、また加工工数が多いなど生産性が問題である。

三菱の歯車加工技術は、低騒音化と生産性向上を目的とし、歯車の仕上げ加工を歯車研削からホブによるさらえ、現在は焼入れしたブランク材をホブによる歯車加工へと進化させてきた。この加工方法を流用することによりハイポイド歯車に替わる新しい直交歯車(スーパーヘリクロス歯車)を開発した。この歯車はハイポイド歯車と同等のコンパクト性、高効率だけでなく、生産性が高い歯車となっている。

講演会終了後、有志一同、場所を変えて、懇親会を行った。講演会でできなかった質問やアドバイスが交わされ、思いもかけない色々な話を聞くことができ有意義であった。

お詫びと訂正

前号(73号)23頁のタイトルが「御協力いただいている賛助会員」となっていましたが「御協力いただいている協賛会員」の間違いでした。お詫び申し上げます。

第四部会技術研修会

施設見学研修会

第四部会長 小宮 信行
(上・下水道・福岡)



19年度は、下水道を中心として施設見学会・技術講演会を計画しています。

施設見学研修会は、平成19年11月2日の15時に現地の博多市民センター第4会議室に集合し、福岡市下水道局の担当者から説明を受けました。今回の見学内容は、博多駅地区を中心とする浸水対策の「雨水整備レインボープラン博多」の計画概要、福岡市における災害時のソフト面での対応等の説明を受け、その後、山王雨水調整池を現地見学しました。

「博多駅地区緊急浸水対策事業 雨水整備レインボープラン博多」は、平成11年6月29日と15年7月19日に甚大な浸水被害が発生したため、16年度から取り組まれている。その事業の一つとして山王公園に雨水の貯留を目的とした山王雨水調整池を設置したものの。

2度の浸水被害状況(福岡市市民局防災課資料より)

区 分			H11,6,29	H15,7,19
博多区被害	住家	床 上	275	874
		床 下	551	766
		計	826	1,640
	非 住 家		1	1,152
	合 計		827	2,792
市内全域の浸水被害(戸)			3,478	2,916
博多区地下施設浸水被害(棟)			81	97

【博多駅周辺の総合的な浸水対策】

計画雨水整備水準である10年確率の時間雨量59.1mmを平成11年6月29日の実績最大79.5mmに見直しする。

対策としては、現在の10年確率時間雨量59.1mmの施設計画に、貯留施設(雨水貯留管雨水調整池など)と浸透施設(浸透側溝など)を加算した形で、時間雨量79.5mmに対応させる。

【山王雨水調整池の整備概要】

整備目的：山王地区・博多駅南地区等の約129haの浸水防除

整備場所：山王公園

山王雨水調整池関連 総事業費：25億2千万円

施設概要

① 山王1号雨水調整池

貯留容量：約13,000立方メートル



工事方法：掘り込み式(野球グラウンド)

② 山王2号雨水調整池

貯留容量：約15,000立方メートル

工事方法：地下式

③ 流入管

口径2,400～2,000mm 延長 500m

④ 付帯設備等

分水・制水ゲート、ポンプ、電気、建築工事

⑤ 山王ポンプ所

調整槽、ゲート設備、ポンプ、電気設備

山王1号雨水調整池は、野球場を掘り下げて、そこに雨水をためる施設であり、山王2号雨水調整池は、グラウンドの下に建設された巨大な池である。見学した時は、空気を貯めている無用の施設の感がありますが、いざという時に力強い貯留施設となると思います。

また福岡市の防災ホームページでは、警報・注意報、雨量などの気象情報、河川水位や河川の画像など、防災に関する様々な情報を提供しているとのことです。

メールの申し込みは、

パソコンからは：<http://bousai.city.fukuoka.jp>

携帯からは：<http://bousai.city.fukuoka.jp/i/>

最後に忙しい中で親切な説明いただいた下水道局の職員の方々にこの紙面を借りてお礼を申し上げます。

第六部会 福岡地区共催技術研修会

「玄海原子力発電所」 見学会 研修報告

第六部会長 松浦 茂雄
(環境・福岡)



1. 実施日時：平成19年9月29日（土）
10：00～17：30
2. 参加者：九州支部第六部会 及び 福岡地区
合計 24名（一般3名を含む）
3. 研修項目：
 - ① 原子力発電の安全確保について
 - ② 環境アセスメント（発電所立地）
(CPD認定行事)
4. 行程：
JR姪浜駅前集合→貸切バス（昭和バス）→玄海エネルギーパーク→発電所構内を車上視察→多目的ホールで質疑応答→帰途 佐賀県オフサイトセンター（車上説明）→JR姪浜駅解散
5. 研修内容：
 - 1) 10：00に駅前集合、10：15発車、西九州高速道路、浜玉有料道路を經由し11：45に目的地の玄海エネルギーパークに着いた。（土曜日ということで昼食時の食堂の混雑を予想して）途中のコンビニROWSONで各自弁当などを調達して現地のロータリー休憩所で昼食とした。
夜明けにばらついていた小雨も止み、現地の昼食時には晴天・そよ風に吹かれて周辺地域に林立（19基）している風力発電の翼もゆっくり回転する様子は、まさにエネルギーパークにふさわしい風景である。
 - 2) 車中研修：第六部会幹事の古賀照久氏（業務関係で原子力発電所の内部事情に精通）から用意したパンフレットによって原子力発電所の概要説明を行われ予備知識を習得することが出来た。また発電所が立地する玄海町について興味ある状況も説明された。
昭和46年始めまで佐賀県のチベットといわれていた小高い台地は岩盤の強固さが決め手となって、発電用原子炉据付のための地均しから岩盤掘削（-26m）によって大変身、今では玄海原子力立地による多額の税収のため財政事情が好転し、周辺地域は平成の大合併により唐津市と合併した中で東松浦郡を構成する唯一の自

治体となっている。里地・里山の棚田や葉タバコ、ミカンなどによる農業・林業と佐賀牛、玄界灘に突き出た半島周辺の漁業（鯛の養殖）と、最先端の原子力発電所や風力発電が調和した電源立地が融合して一見静かな景観である。産業廃棄物の牛糞の処理が大変そうだが、バイオマス発電（メタン発酵）に結びつけば更に電源事情が好転するのでは…などと愚考は尽きない。

3) 原子力発電に関する講義（約1時間）

エネルギーパーク内の多目的ホールに集合して、福山謙司パーク館長から、配布されたパンフレットや資料による説明が行われ、改めて現況を確認することが出来た。

九州管内の全電力需要に占める原子力発電が41%であること、1号機～4号機が毎年1回の定期点検（約1ヶ月停止）を除いて73～85%の利用率で順調に運転されている実績を見ると、近年新聞紙上を賑わしている他の原子力関係施設の問題等を危惧していたが、この地ではこれらの認識がほぼ完全に払拭された感がある。

概況説明の後、エネルギー館内のサイエンス館で実物大の原子炉模型（1～4階吹き抜けの全周型で内部構造が一見出来る）によって全体構造を説明され、また炉心のウラン燃料集合体や緊急停止用制御棒の配置が見て取れる状態になっている。

軽水減速・軽水冷却加圧水式（PWR）の蒸気発生器やタービン発電機、復水器などが大きなパイプ群で連結しており、原子力発電の全体構造が確認できる。

核分裂によってペレット表面温度は300℃まで上昇し、加圧によって沸騰しない状態で蒸気がタービン発電機に導入される。周辺の壁面には精密な内部構造図や過去の原子力発電所事故例など、各種情報が所狭しと展示されている。

サイエンス館を1～4階まで一巡して原子力発電の全体知識が把握できるように構成されている。（見学コース約50分）

4) 所内巡視（約30分）

従業員として、社員489名、協力会社員1,357名が働いている。

用意された構内バスに乗り込んで、1～4号原子炉立地状況を巡回見学した。以前はバスから降りて構内に入ることが出来たそうだが、現下のテロ対策上、バスから下車は認められず車

上見学は仕方の無いことである。構内各地に警備員、遮断機、巡回バスの床下まで反射鏡でチェックするという状況で機動隊も常駐しているとか、ここにきて原子炉のテロ襲撃の危険性？を改めて知ることとなった。それにしても4基の原子力設備や付帯機器が広大な岩盤敷地内に整然と立地している状況は壮観である。

5) 質疑・応答 (約40分)

幹事会で前もって集約した質問要旨を参加者名簿とともに提出しており、先ず質問に対する回答という方式で福山館長から回答をいただいた。

① 経営工学関連

Q；周辺地域住民との原発運用に係るコミュニケーションは？住民からの苦情、心配、不安など

A；広報紙によるコミュニケーションを始め、地域の各種行事に積極的に参加して交流を深め、幼稚園、老人ホーム訪問やゲートボール大会や農産物の地産・地消、フォトコンテストなど種々の交流会を行い、職員は勿論、協力会社社員を交えて実行している。

Q；原発は建設費が高額であるため、採算上高い稼働率の維持が必要であるが、無理な操業で維持管理面での不協和音があるのでは、対応策はどのようなものか？

A；安全第一が必須条件であり、更新工事や安全検査に伴う報告事項は厳正な基準により確立されている。従業員は訓練センターにおいて模擬装置による繰り返しの操作技術を習熟している。

過去に落雷による自動停止、一時冷却水漏洩事故に係る手動停止があるが、4基の発電機はおおむね70～80％強の稼働実績を保持しており他の発電所に比して効率的な運用状態で推移している。今後とも万全の体制で取り組んでいるところである。

② 情報工学関連

Q；発電所周辺の環境モニタリングデータの通報システムは？基準値を外れたデータや不測情報を把握した場合の対応システムはどのようなになっているか？

A；空气中放射線強度（外部被爆）及び食物類の放射線（内部被爆）の基準値が九州電力、佐賀県に設定されている。周期的測定データ

の報告義務及び緊急時の通報体制は完備しているので、これまでトラブルは無い。非常時の連絡通報は国、県、消防関係の専用回線によるホットライン、九電独自のホットライン、また海外とも情報の共有システムを構築している。

台風襲来時の緊急対策、塩害防止対策など発電所独自の対応システムも完備している。

課長以上に配備されている携帯通報により、突発的な同報・通報システムも完備している。

③ 環境関連

Q；ISO14001による環境管理の実態運用システム、問題点、環境報告書について？

A；玄海発電所独自のISO取得は無い。（川内発電所は取得済み）。システムの水平展開により準用している。環境報告書は九電本社で「九州電力環境アクションレポート」を発行しており、その中で原子力関連情報として記載している。安全管理体制、発電設備の維持管理、放射線管理、放射性廃棄物の管理・処分、環境アセスメントの実施状況など詳細に記載されている。（閲覧可能）

2010年度より3号機に関してプルサーマル計画が実施に移されるが、事前のアセスメントや国、県、地方自治体との設置許可は完了し、MOX燃料の加工・輸送などの準備が進められている。ウラン燃料の継続的更新活用の点で、今後は国内各原発でもこの方式が計画されているところである。

④ 原子力発電所の立地に絡む建設基準について

Q；玄海原子力発電所の立地条件は？

A；さきに述べたように、半島全体が強固な岩盤であり、-26m掘り下げて10m厚のコンクリート基盤の上に原子炉は構築されている。周辺地域に活断層は発見されていないし、大きな地震も経験していない。原子炉自体は第1の壁（ペレット焼結）、第2の壁（燃料被覆管）、第3の壁（厚さ約20cmの鋼鉄製原子炉容器）、第4の壁（厚さ約6.4mmの鋼板原子炉格納容器）、第5の壁（厚さ約1.3mのコンクリートで囲まれた原子炉格納容器）と5重の壁でガードされた安全対策である。周辺海水を利用した復水器の設置など外的条件も好都合である。

新潟県中越沖地震によって予想外の被害を

受けた東京電力敦賀刈羽原発の事例を見て（活断層）、原子炉本体は設計的余裕を保持し一応の安全宣言を出している。外部被害に関して各原発は水平展開を実施して各種設備の見直しや更新に取り掛かっている。

以上、当方から出した質問事項に対する回答の全容である。

⑤ さらに参加者から追加質問として

Q；原子炉容器と格納容器の材質について

A；原子炉容器はSFVQ 1 A・・・

2 A, Mn-Mo-Ni鋼

原子炉格納容器はプレストレスコンクリート製（SGV42, SGV49, SB49B？）

Q；原子力発電所の立地を都会周辺に置かない理由は？

A；万一の事故時における個人被爆に対して集団被爆の影響が甚大であることから過疎地が優先的、また冷却水の確保、基礎地盤の強度、活断層の確認など大きな確認項目がある。

Q；原子力発電の将来展望は？

A；地球温暖化問題におけるCO₂発生問題に関する利点、化石燃料の将来展望、ウラン資源の有効利用を考えた将来像として、プルサーマルから高速増殖炉の開発（50年先）へと進むであろう。また電力自由化の影響もあり、新規立地よりも地元増設が好ましいが、玄海では余地がない。川内原発は今後増設の機運にある。

Q；原子炉関係の建設費に差があるが？

A；1号機（545億円、オイルショックなし、昭45～昭50に臨界、出力55.9万KW）

2号機（1,236億円、オイルショック影響、昭51～昭55に臨界、出力55.9万KW）

3号機（3,993億円、昭59～平成5に臨界、出力118万KW、4号機の共用設備共）

4号機（3,244億円、昭59～平成8臨界、出力118万KW）

およそ15年で減価償却、修繕費のほか、定期検査における部品交換など約60億円／回を要する。

玄海発電所は各機ともに高い運転効率を維持して順調に稼動中である。

質疑応答に熱が入り、予定をオーバーして16時にエネルギーパーク前で記念写真を撮影し、貸切バスで唐津市内に着いて車中から佐

賀県オフサイトセンターを横目に見て帰途に就いた。

オフサイトセンターは原子力発電所の万一の事故時に、緊急事態応急対策拠点施設として、国（総理大臣を長とする原子力災害対策本部）、現地対策本部（経済産業省）、県、地方自治体はもちろん、原子力事業者、専門家をはじめ自衛隊、警察などが一堂に会して情報を共有しながら対策に当るシステムを保有して常時待機の状態にある。

（17時30分姪浜駅前 解散）



⑥ おわりに

3年ぶりに第六部会の見学会を企画し、福岡地区の共催によって所期の目的を達することができました。

企画立案や諸般の準備にご苦勞をおかけした第六部会幹事；古賀照久先生、畠中新二郎先生及び福岡地区代表幹事；深見一男先生のご尽力と九州支部事務局のご配慮に深甚の謝意を表します。

最後になりましたが、九州支部のCPD行事として審査・認定いただきました完戸先生に厚く御礼を申し上げます。

高レベル放射性廃棄物の－300m以深への半永久保管など未解決の問題があるが、地球温暖化問題や化石燃料の高騰を目の当たりにし、21世紀環境立国宣言においても地球環境問題に関して、日本を始め中国や世界の各地に今後原子力発電立地の必然性が高まる機運にあるこの時期に、身近にある玄海原子力発電所の実態を見聞し大きな知見を得ることができました。

CPD行事として対処できたことは有意義であったと自己評価する次第です。

第七部会技術研修

見学会報告

第七部会長 山田 伸雄
(建設・福岡)



1. 平成19年の活動概要

第7部会では2ヶ月に1回の定例会、年1回の公開講演会を実施しています。第7部会の特徴は異なる分野の若い技術者が集まることにあるため、定例会や講演会では年間テーマを設けて、様々な分野の技術者が意識共有をできるように工夫しています。

平成19年は「九州の産業・技術遺産」をテーマとして以下の定例会や見学会等を行ってきました。

- 4月定例会：産業・技術遺産としての軍艦島
- 6月定例会：三池港の歴史と未来
- 8月定例会：ユネスコ世界遺産の登録に関して
- 11月見学会：北部九州の産業技術遺産
- 12月講演会：『遠賀川流域の近代化』『世界遺産概念に学ぶ文化遺産のマネジメント』

2. 見学会の実施報告

11月に実施した見学会では、北部九州に点在するいくつかの産業技術遺産を間近に見ることができました。明治に作られ今も使い続けられている三池港、廃墟の中に当時のまま機械類が保存されている万田坑。こうした産業技術遺産に触れると、日本の近代化に貢献してきた先達の魂が私たちに語りかけてくるような気がしました。

以下に各見学場所での参加者の代表的な感想を記します。

(1) 三井港

- ・先人の知恵と先人の明に驚かされる。長く大切に使い続けることも技術者の務め。
- ・大切に使うことが近代遺産を守るヒント。
- ・交換用の木材を海中に埋めて準備していた当時の技術者の用意周到ぶりに感心した。
- ・故障時の対策が二重にとられており、明治の頃のリスク管理に驚きました。

(2) 万田坑

- ・H9年まで使用していたという巻揚機は、当時の技術のすばらしさを感じました。
- ・国を上げた生産効率追求の中でも、労働者の安全を懸命に守ろうとする技術者の姿勢に感銘を



受けた。

(3) 姫井橋

- ・大正14年という刻印が歴史を感じた。廻りの環境に違和感なく存在していたのが印象的であった。
- ・100年耐えられる橋づくりとは何か。これを機会に考えたいと思う。

(4) 志免炭坑堅坑櫓

- ・堅坑のみ残っているので、保存への投資と安全確保のバランスをどのようにとるかが問題。
- ・何のために保存するのかを明確にして、そのためのソフトを整備する必要がある。

この他にも多くの感想が寄せられていますが、総括すると「当時の技術者が何を考えたか」、「その結果どうなったか」、「それを自分たちの今後の技術にどう反映させるか」、「保存活用していくために必要なことは何か」という4つでした。

第7部会としての見学会は初めての試みでしたが、ただの物見胡散ではなく、技術者として自分を振り返る貴重な機会となりました。

今後も様々な取り組みを実施していきますので、第7部会員をはじめとする皆様のご参加、ご支援をお願いいたします。

訃報

内山順治先生（森林・佐賀）が11月に逝去されました。

内山先生は、前CPD委員長として、支部活動に多大なる貢献していただいております。

謹んでご冥福をお祈りいたします。

技術情報

唐津から発信する 新技術



水と土と緑の環境を創出するミラクルソル工法

牛谷 逸朗

(建設、総合技術監理・佐賀)

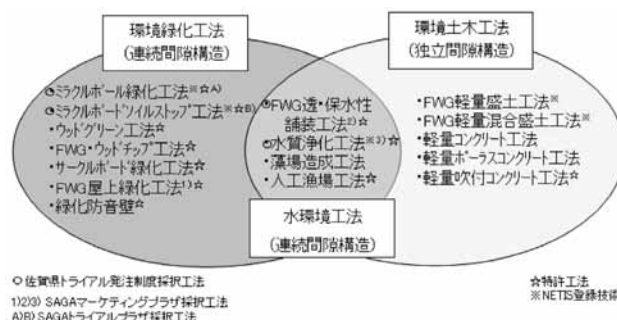


図1 ミラクルソル工法のクラスター図

1. はじめに

筆者の勤務する日本建設技術は、建設業と建設関連業を併せ持つ会社として佐賀県唐津市他を本拠に事業を展開している。

近年、資源循環型社会を構築するために数多くの新技術・新工法が提案される中で、弊社も発泡廃ガラス（ミラクルソル）を用いて建設分野への有効利用を提案し、各種工法がすでに活用されている。

日本建設技術(株)のHP：<http://www.nkg-net.co.jp/>

2. ミラクルソルの概要

ミラクルソルの特徴としては、非吸水性（吸水率10%以下）タイプと吸水性（吸水率100%以上）タイプが製造出来、用途に応じて使い分けている。（写真1, 2 参照）

この材料は、比重（Gs=0.4～1.5）や粒径の調整が可能であるため、多様なニーズに対応出来る。

また、化学的にも安定しているので、熱や薬品に対して強く、腐食しないという利点がある。

ミラクルソルを用いた工法としては、環境土木工法、環境緑化工法、水環境工法がある。（図1 参照）

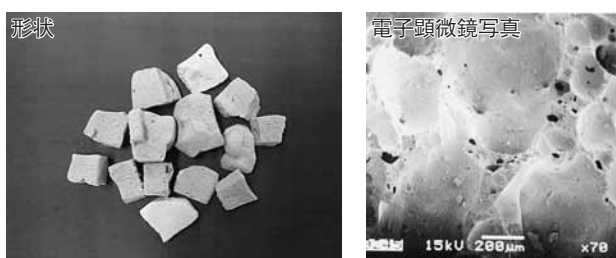


写真1 非吸水性発泡廃ガラス材（独立間隙構造）



写真2 吸水性発泡廃ガラス材（連続間隙構造）

3. ミラクルソル工法について

環境土木工法は、軽量盛土工の盛土材として、また軽量コンクリート工の骨材として非吸水性のミラクルソルを使用する。

環境緑化工法は、吸水性のミラクルソルを植生基盤材に混合することで、土壌の保水性や保肥性を改善し、植物の初期発芽や根の成長を促進させる工法で法面緑化に用いる。また、屋上緑化の保水層として土壌の下にミラクルソルを敷設することで、培養土の層厚を減らすことが出来、総合的に軽量の屋上緑化が施工できる。

水環境工法では、吸水性の高いミラクルソルを濾過・接触材として使用する。連続した間隙に微生物膜が形成され、これにより汚水等に含まれる有機物を分解する工法である。

下記に紹介する事例は、ダム流入水の水質改善を目的として設置された幅26m×長さ43m×深さ2.5mの浄化施設である。この浄化施設の当初目的は、ダム流入河川水のリソ除去を目的としたものであったが、親水利用としての水質改善のために施設改修が必要となった。自社の実験データから大腸菌の除去が十分可能なことから試験施工にミラクルソルが接触材として採用された例である。

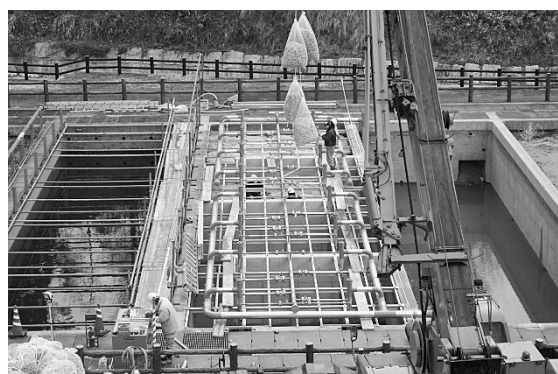


写真3 ミラクルソル充填状況

地域だより

熊 本

熊本での最近の活動

広報委員 吉田 紘彬
(応用理学)



「熊本市の水道水は全て地下水でまかなわれ、とてもおいしく健康によい」とは一度記述したのでご記憶にあるかと思います。阿蘇カルデラの形成時に多量の火砕流を放出し、熊本市に向かうカルデラ西麓では、前地形が埋没して大規模な地下水盆が形成されると共に、雨水が浸透しやすい火山灰土に覆われていることが豊富な地下水の基となっています。この地下水位が年々低下し、窒素化合物が徐々に増加していることは、「水前寺・江津湖」の湧水量減少と停滞、植物プランクトンの発生など明らかに見て取れることから、今や江津湖は地下水保全のシンボリック的存在になっており、「週刊新潮11月29日号」に「水の都熊本が始めた水の再生」の題目で「ポリグルタミン酸」の紹介と合わせて写真入りで掲載

されています。「地下水保全都市」を宣言した熊本市の一翼を担って(社)日本技術士会プロジェクトチーム熊本技術センターでは「白川中流域における深層地下水のかん養方法」「白川下流域における浅層地下水の涵養方法」を提案し、活動を開始いたしました。瑞穂の国日本は、今や技術立国日本に取って代われ、食料の自給率が低下して、ガソリンの値上がりを見た途端に、将来も食料輸入が可能なかと心配されています。おそろになった「農業政策」等について、熊本県技術士会とNPO法人熊本技術士の会では、2月頃の予定でシンポジウムの計画が進行中です。その他、熊本技術士の会では、分かりやすく～深く「土木史資料収集業務」にコンピュータ技術を駆使して取り組んでいます。

最後に、民事裁判の鑑定業務を体験し、次のような教訓を得ましたので御報告いたします。中立で公正に鑑定しても、どちらかに有利・不利が発生し、一方が上告したら、次は証人として書類を提出し、高等裁判所で証言するわけですが、日当8,000円と交通費4,000円が支給されるだけで、手出しが多く仕事にはなりません。

宮 崎

「がぐれんすづくり」プロジェクト(PJ)に参加して

大崎 睦男
(農 業)



「がぐれんすづくり」とは、宮崎県の都城市近辺で河童をがぐれと言うことから名づけた、河童が棲みそうな川(環境)づくりのことです。本PJは平成18年3月に設立され、市民、公務員、有識者などで構成される会員約30名で月1回を基本に活動しています。

活動拠点は、都城市街地に近い大淀川と萩原川が合流する一帯で、河川敷にはホテイ竹が密生しています。上流部には早瀬・淵が連続しており、河畔林の群落も見られます。左岸側は堤防が整備され川の駅を中心とした公園があり、レンタサイクルを楽しむ家族連で賑わっています。また、右岸側は堤防が低く、水田が広がり洪水時の遊水地となっており、その中を川と平行にサイクリング道(鉄道跡)が走り、散歩や通学路に利用されています。さらに、付近には当地を治めた島津家の墓石群などがあります。

PJでは、初年度の3月と6月にワークショップ「PJが目指す水辺の姿」を開催しコンセプトづくりを行いました。また、夏には子供エコクラブ等の参加により川の生き物や水質調査及び野鳥観察を行い、この活動の中で、用水路の底40cm四方にマシジミ600個以上を発見するなど多くの成果が得られました。さらに、平成19年7月には付近の休耕地を借り、ビオトープ作りを開始し、暑い中、草刈や用水路の復旧など休耕地に水を張る作業を行いました。そして間もなく、ギンブナの稚魚等が流れ込んできているのが確認されました。しかしながら、用水路に流していた少量の水が稲作農家の人に止められるなど、自然環境の保全・復元に対する総論賛成、各論反対が表面化し、コミュニケーション不足を痛感しました。

一方、川に関わる古事などを調べ河川空間の持つ意味を読み解き、川作りに反映させようというテーマにも取り組みました。流域内外の史跡めぐり、地名のいわれ、川の要所に鎮座する神々、熊襲(隼人)民族、祭りの意味等々・・・このような活動に参加して、視野も広がり川を楽しむ方法も幾つかあることを感じました。今後もいろいろな方々と交流を深めながら、地元をこだわった、「がぐれんすづくり」を継続したいと思います。

鹿児島

鹿児島県技術士会の活動について

広報委員 後藤祐一郎
(農業、総合技術監理)



鹿児島県技術士会では、CPD対応技術研鑽会や技術講演会などの活動を行っています。前回の報告以降のような活動を行いました。

CPD対応技術研鑽会は、会員持ち回りで講師を務め次の通り開催しました。

- 5月研鑽会 区画整理について
講師 塚田 憲一さん
- 6月研鑽会 ドイツのビオトープと環境保全
講師 上野 幸一さん
- 8月研鑽会 地方中堅上場企業の経営から学んだこと
講師 村岡 公範さん
- 9月研鑽会 農業の現状と問題点
講師 豊島 英樹さん

10月研鑽会 水環境の保全と浄化槽

講師 牧 浩一さん

11月研鑽会 親水・景観・生態系に配慮した排水路

講師 奥山 康宏さん

平成19年度の現地見学会は、青年部の主催で、コーアツ工業株式会社大隅工場の橋梁上部工のプレキャスト桁、建築物のPC床版、テールアルメのコンクリートスキン等の製作状況の見学を行い、コンクリート二次製品について研修しました。

今年度の活動計画で、鹿児島工業高等専門学校と連携協力を行うことになりましたが、6月27日に協定式、基調講演、懇親会を開催しました。

早速、連携協力協定に基づき鹿児島県技術士会から環境創造工学特別講義に2時間13回の講師を派遣することになり、既に講義が始まりました。

また、12月に開催予定の平成19年度第2回技術講演会の講師に鹿児島工業高等専門学校に派遣依頼するなど、技術連携を推進していきます。

なお、工業高等専門学校と技術士会との連携協力は、日本で初の試みとのことです。

大分

大分地域の近況とCPD(生涯研鑽)

技術士会 冷川 久敏
(水産、総合技術監理)



支部長を始め会員の皆様「明けましておめでとうございます。本年もよろしくご指導の程お願い申し上げます。」

当地域の近況を二つお伝えします。

- 1, 当地域の技術士をとりまく環境は、建設関連の部門を中心に厳しくなる一方で、大分県では県の方針として、測量・調査設計に関して「各種資格者の適用に関する通達」を平成13年に土木建築部長名で配布しています。2～3年毎に徐々に資格の適用をグレードアップさせてきましたが、平成19年度から調査・設計に関する指名は「部門別技術士を対象とする」段階となっています。その意味するところは、農政に関わる事業の発注は「農業部門」の技術士を、建設に関わる事業は、「建設部門」の技術士を有する企業を指名するというものです。

更に通達は、平成21年度以降からは「科目別技術士」を対象に指名するとなっており、現在県内

の設計会社やコンサルタントを中心に通達内容を満足する必要最小限の技術士を確保すべく戦々恐々であります。このことで「技術士」が話題となり、注目され、見直されている面もあります。

- 2, 当会のCPD(生涯研鑽)の目標は、産・学・官三分野のバランスのとれた、総合的な社会常識と社会の動き、環境の変化などに対して、自分の立場を俯瞰できる幅の広い、奥の深い技術士を目指すこととしており、会員個々が持つ専門分野の研修は個人が独自に研鑽を積むことにしています。当会では、平成19年の1年間に、CPD(生涯研鑽)を5回(延べ24時間)、現場研修会を1回(2時間)の実施計画を立て、計画通りに実施を進めているところです。6時間単位で年3回実施する研修会は、RCCM資格者と合同で実施しており、毎回130名程度の参加者が有ります。合同での役割分担は、当会が研修会の立案を受け持ち、県測協が事務方を担当することになり、運営は独立採算性で独立会計(取りあえず)で実施しております。精算で黒字が出るようになれば、それをストックして参加費を3千円から2千円～1千円にするとか、時には高名な先生を講師に招くなど、当会のCPD委員会では、今後の発展に期待しているところです。

I

緊張感を刺激に

小西 徹

(建設、総合技術監理・福岡)



数年前から、技術士試験の監督業務を勤めさせていただいている。試験が始まる直前のピンと張り詰めた空気、終わったあとの開放感、そして合格発表の時も受験者と緊張感、達成感を共有できる。

技術士試験に挑戦する意欲ある若手技術者から、私はいつも多くの刺激を受けている。

私は約20年近く前に、先輩・上司の指導により、建設部門・道路科目に初受験で運良く合格することができた。以来さしたる刺激もなく日常業務をこなしてきた。しかし自分の知識が狭い範囲にとどまり、世間一般の常識とずれて偏っているのではないかと、自信がなかった。

相応の年齢になって次世代を担う若い技術者に、技術士試験を計画的に受験指導し合格させるため、そして自分自身も時代の変化に対応できるよう、技術士法改正を契機に自分も一緒に技術士試験に再チャレンジしようと思った。

率先垂範と継続研鑽を併せて実践でき、ボケ始めた頭の活性化にもなると考えたのである。

平成14年度、この年は一次試験受験が免除される最後の年で、「建設部門・建設環境」を選択して受験した。道路建設に邁進してきたこれまでの自分の仕事を、社会環境や自然環境という別の角度から振り返る機会をつくった。約15年ぶりの技術士の受験勉強にとりかかったが、長年の不勉強が露呈し、特に経験論文作成の要領をつかめず難儀した。先輩の助言もあって、次年に向けて一次試験（適性試験）も受験しておいた。専門科目での環境分野の概念やキーワードの理解と記憶力の低下にも苦労したが、年齢のせいと思いたくなかった。久しぶりの口頭試験に緊張しつつ幸いに何とか合格できた。

受験はこれでもう終わりに、とも思った。しかし実はこれは始まりであった。久しぶりのこの緊張感・達成感が、ほどよい刺激になってしまった。

翌年の15年、社会資本メンテナンスの分野へ参入するために(社)日本コンクリート工学協会の「コンクリート診断士」を受験することにした。それに加えて、ある友人から技術士「鋼構造及びコンクリート」で受験する若い修習技術者の指導を頼まれた。

私は以前「コンクリート主任技士」試験の合格に続けて、平成2年に技術士「鋼・コン」の「コンクリート」科目で受験し筆記試験に合格できたものの、口頭試験で落ちていた。以来再受験することなく過ごしてきたが、指導の依頼をきっかけにこの修習技術者と、技術士試験にも診断士試験とダブル受験でリベンジすることにした。

「コンクリート診断士」の試験日は7月中旬、技術士試験の2週間前であった。「技術士」も、「コンクリート診断士」の出題に近い維持管理分野の選択問題を選べば何とかなると、楽観的に考えることにし、「コンクリート診断士」を主に勉強した。

試験に落ちて失うほどのプライドは持ち合わせていないものの、指導技術者である私が不合格になると、一緒に受ける修習技術者から実力・指導力を疑われるので、それなりにプレッシャを感じた。

幸い、平成15年に「技術士」(コンクリート)と、「コンクリート診断士」、翌16年には「総合技術監理」、17年に「土木学会認定技術者」(上級・メンテナンス分野)に4年間続けて、指導を引き受けた修習技術者と常に一緒に受験し合格できた。

学生の頃あれほど嫌だった試験を、50歳過ぎて毎年続けて受験することになるとは、皮肉なことである。その間、受験指導した意欲ある若手修習技術者、前述の技術者を含め3名全員も合格できた。彼らから熱意と刺激と知識、そして自信もいただいた。

経験論文のテーマになる実務から遠ざかったため、経験記述を要する受験をとりあえず休止している。専ら指導と監督に専念して、試験監督のときに自分の専攻分野の試験問題を持ち帰り、苦心しつつ取り組んで能力を棚卸ししている。

今はすっかり落ちてしまった体力を鍛え直すため、2年前から近くのスポーツクラブでトレーニングに励んでいる。心・技・体のバランスも大事である。

いつの間にか「還暦」という節目に近づいてきた。だんだんと体力、気力や記憶力が弱まることにあせりを感じる年齢である。頭も体も使わなければ衰える。向上することは無理にしても刺激を持続すれば、衰えはなんとか先送りできそう。2月には「防災士」資格を受講・受験する予定にしている。

試験は体力測定や試合への出場のようなもので、自分の力が定量的、客観的に評価できる。

試験の時の緊張感をこれからもいい刺激にして、迫っている会社の定年後の社会貢献への手探りにもしたいと思っている。

CPD認定会員 A0022566

((株) NIPPOコーポレーション 九州支店)

II

NPO法人「技術交流 フォーラム」と調査・ 設計業務の品質確保

小倉 驍
(建設・佐賀)



NPO法人「技術交流フォーラム」の前身は、佐賀県技術士会である。活動を広げるため、約6年前に名称を変更した。技術交流フォーラムの諸活動（興味がある人は、技術交流フォーラムのホームページをご覧ください）の中に地域づくり部会があり、この地域づくり部会が中心となって品質確保検討会を開催し討議を重ねてきた。

品質確保検討会の主要テーマと活動の概要は、前回の福島氏（佐賀地区）の投稿文に紹介されているので説明は省略する。今回は、第2分科会で検討している課題の一つである「調査・設計業務の品質確保」に対する問題点と今後の方向について述べてみたい。

平成17年2月の小生の投稿文に述べているように、調査・設計業務の照査は管理技術者と同等かそれ以上の技術力を持った者（本検討会では、原則として技術士を考えている）が行なうのが最も良い方法であろう。しかし、県内コンサルの照査の現状は、各企業単独では、技術士の数が圧倒的に不足しているため、県や市町村から発注される多種・多様な業務を、誰もが納得できる形での照査（成果品の照査・業務途中段階でのレビューを含む）は難しい状況である。

このような状況を打開するために、県内技術士の集まりでもある技術交流フォーラムを中心に、照査を希望する企業があれば、何時でも利用できるような照査システムを作る方向で検討を進めてきたが、討議の進行に伴い、多くの問題点が浮き彫りになってきた。問題点の主要な部分を列記すると、

① 照査を外注することに対する発注者の対応

発注者に確認したところ、良質な成果品を提出して貰うためには、照査を外注しても良いとのことであり、これに対する問題はない。

② 業務上知り得た機密の漏洩

照査を依頼した場合、社外の第三者が業務上で

の機密を知ることになるが、この問題は技術者の倫理観の問題であり、技術士法第45条に照らし合わせても大きな問題ではないと判断された。

③ 照査を行なう側（品質確保検討会）の問題点

技術交流フォーラムの諸活動は会員のボランティア活動から成立っている。会員は、ほとんどの人が企業に属しているため、就業時間内での活動には制限があり、照査依頼者に合わせたタイムリーな照査活動を行なうことが難しい。また、稼働に対する所属企業への報酬が伴わなければ、照査活動に対し企業の許可が得ることが難しい。結果、照査に参加できる人の数が制限され、照査依頼された全業種に対応できるだけの技術士を揃えることが困難である。

④ 照査を依頼する側の問題点

各企業は自社の技術にプライドを持っており、成果品や設計途中での社外からの干渉に対しアレルギーを持つ可能性がある。その結果、照査依頼をすることに躊躇いが生ずる恐れもある。又、照査依頼をしても迅速に対応してくれるか、照査費用がどのくらいかかるのか等の不安もあろう。

⑤ 照査責任の有無

照査をする技術者も全ての知識を持っているわけではない。照査結果が問題になることも考えられる。この時の照査責任をどうするか難しい問題である。

⑥ 照査費用

照査活動に費用が必要である。この費用は依頼者が負担することになるが、費用の設定が難しい。高すぎれば、照査依頼は減ることが予想され、一方、安すぎれば活動が負担になる。これらの問題を解決しなければ照査システムは旨く稼働しないことが予想される。一方、十分な品質確保には照査システムの稼働が必要条件であろう。考えているばかりでは、照査システムは一步も前進しない。行動を起こすことが大切であろう。そこで、当検討会では照査システムの足がかりにするべく、先ず技術相談室を来年度の初めに立ち上げる予定でいる。

社会資本の品質を確保するために、少しでも理想に近づくための第一歩にできればと思っている。

修習技術者の声

修習技術者として

宮崎 直人
(建設・長崎)



私が修習技術者となって、3年になろうとしている。平成15年度に技術士の試験制度が大きく改正され、二次試験の受検資格条件として、一次試験の合格が必須となった。

試験制度が変わる前に何とかしたいという考えから、慌てて受検したものの、そもそもどういう勉強をしてよいのかも分からず、散々たる結果であった。

私は、学生の頃から技術士という資格があるのは認識していたが、就職してしばらくの間、この資格は、会社の幹部クラスが建設コンサルタント登録をするために持っていればよい資格としか思っていなかった。

しかし、同業者との交流の中で、意外と身近に資格保有者がいることに気付いた。また、同じような業界に就職した友人たちも相次いで、取得していくのを聞いて、実務を遂行していくうえで、必要な資格であるとの認識を新たにした。技術者の集まりの中で、様々な分野に携わる技術士の方々と交流を深めることは、自分自身の視野を広げ、また、自信に繋がることを確信している。このような場には、積極的に参加して、自分を磨いていきたい。

我々が携わる建設業界は、公共事業の削減の影響を受けて、年々厳しくなっている一方で、有資格者の配置が要件となり、高い技術力やコスト削減、環境問題に配慮した設計などが要求されている。

入札制度改革で、総合評価方式の拡充がなされ、技術力を問われる中、諸先輩方の技術士を補佐しながら、自らの技術力向上に努め、技術士資格を取得するために、努力していく所存である。

会員ニュース

☆(社)日本技術士会(九州支部) 入会

〈平成19年8月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	大坪 康浩	機械	住友重機械工業(株)PTC事業本部横浜営業所
福岡	正会員	明石 光宏	建設	(株)エム・ケー・コンサルタン
福岡	正会員	伊与田勝己	上下水道	西日本開発コンサルタント(株)技術部

〈平成19年9月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
福岡	正会員	馬場 三郎	電気電子	(株)九電工 安全・品質管理部
福岡	正会員	河島 正治	建設	大豊建設(株)九州支店 総合技術
福岡	正会員	古賀 淳一	建設	八千代エンジニアリング(株)九州支店

〈平成19年10月〉

(所在地)	(区分)	(氏名)	(部門)	(勤務先)
宮崎	正会員	菅 忍	建設	清武町役場企画政策課
長崎	正会員	高橋 英俊	建設	西日本三菱重工業(株)土木部

会員情報の問合せ

会員情報の問合せは、次のようになっています。

支部会員：①本部のホームページの「会員コーナー」参照

②所属の部会長(第7部会を除く)か、所属の地区代表幹事に問合せ

協賛会員：①所属の部会長(第7部会を除く)か、所属の地区代表幹事に問合せ

第1部会長	黒 江 浩
第2部会長	佐 竹 芳 郎
第3部会長	和 田 洋 二
第4部会長	小 宮 信 行
第5部会長	吉 木 久 人
第6部会長	松 浦 茂 雄
福岡地区代表幹事	深 見 一 男
北九州地区代表幹事	松 原 好 直
佐賀地区代表幹事	宮 副 一 之
長崎地区代表幹事	大 橋 義 美
熊本地区代表幹事	加 来 雄 一
大分地区代表幹事	冷 川 久 敏
宮崎地区代表幹事	出 口 近 士
鹿児島地区代表幹事	後 藤 祐一郎

御協力いただいている 協 賛 会 員

.....〔福岡〕.....	(株)富士ピーエス	大洋測量設計(株)
日本総合コンサルタント(株)九州支店	(株)構造技術センター福岡支社	西日本コンサルタント(株)
(株)建設環境研究所福岡支店	いであ(株)九州支店	東洋測量設計(株)
(株)唯設計事務所	大和コンサル(株)	九建設計(株)
中央開発(株)九州支社	〔北九州〕.....	日進コンサルタント(株)
(株)ダイヤコンサルタント九州支社	(株)九州設計事務所	ダイエーコンサルタント(株)
日本工営(株)福岡支店	九和設計(株)	〔宮崎〕.....
第一復建(株)	(株)都市開発コンサルタント	(株)弓場水工コンサルタント
(株)松本組	(株)松尾設計	(株)ロードリバーコンサルタント
(株)エスケイエンジニアリング	(株)酒見設計	(株)ケイディエム
(株)福山コンサルタント	(株)太平設計	(株)親協
(株)東京建設コンサルタント九州支店	環境テクノス(株)	南日本総合コンサルタント(株)
東邦地下工機(株)	〔佐賀〕.....	(株)宮崎産業開発
大成ジオテック(株)	西日本総合コンサルタント(株)	(株)西田技術開発コンサルタント
富洋設計(株)九州支社	日本建設技術(株)	(有)福島測量設計調査事務所
(株)サンコンサル	(株)九州構造設計	九州工営(株)
(株)橋梁コンサルタント福岡支社	新栄地研(株)	正栄技術コンサルタント(株)
(株)アイ・エヌ・エー九州支店	〔長崎〕.....	(株)東九州コンサルタント
(株)九州地質コンサルタント	大栄開発(株)	日測コンサルタント(株)
(株)タイヨー設計	(株)実光測量設計	(株)ダイワコンサルタント
日鉄鉱山コンサルタント(株)九州支店	西日本菱重興産(株)	(株)白浜測量設計
(株)大建	太洋技研(株)	南興測量設計(株)
新地研工業(株)	(株)新栄設計事務所	(株)アップス
(株)カミナガ	扇精光(株)	(株)国土開発コンサルタント
平和測量設計(株)	〔熊本〕.....	(株)都城技建コンサルタント
(株)高崎総合コンサルタント	(株)九州開発エンジニアリング	〔鹿児島〕.....
西日本コントラクト(株)	アジアプランニング(株)	中央テクノ(株)
西鉄シーイーコンサルタント(株)	〔大分〕.....	朝日開発コンサルタンツ(株)
日本地研(株)	松本技術コンサルタント(株)	(株)久永コンサルタント
第一設計(株)	協同エンジニアリング(株)	コアツ工業(株)
九州環境技術研究所	(株)日建コンサルタント	(株)建設技術コンサルタンツ
西日本技術開発(株)	九州特殊土木(株)	

平成19年度 第4回 九州支部CPDのご案内

日時 平成20年1月26日(土) 10:00~17:00

場所 福岡商工会議所ビル

(〒812-8505福岡市博多区博多駅前2-9-28)

Tel: 092-441-1110)

研修内容と講師

1) 丸林啓太氏

(福岡県商工部新産業・技術振興課 主任技師)

【演題：福岡の水素エネルギー戦略について】(仮題)

2) 松田一也氏

(九州経済産業局産業部中小企業課長)

【演題：新しい中小企業施策と技術士への期待】

3) 白井義人氏(九州工業大学大学院 生命体工学
研究科 教授・農博)

【演題：食品ゴミから環境エンジニアリングプラス
チックの製造】

4) 沼尻健次氏((財)北九州産業学術推進機構 産学
連携担当部長・技術士(機械、総監))

【演題：産学連携における人材育成—シーズ・ニー
ズ変換活用事例からの発信—】

■参加費(資料代): 1人3,000円

■参加申込先:(社)日本技術士会 九州支部

TEL:092-432-4441 FAX:092-432-4443

参加ご希望の方は、支部ホームページ「CPD案
内」、<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>
の「詳細」よりお申し込みください。

会誌“技術士”最近の主要目次

[PE] 技術士10・2007

- ・技術と社会の接点／小島 彰
- ・産業遺産研究から学ぶ技術者倫理／橋本英樹
- ・基幹系システム構築における失敗の本質／
野村典文
- ・下水道技術の仕組み／氷上克一
- ・異常気象と防災リスクマネジメント／柴田 悟

[PE] 技術士11・2007

- ・技術士に期待する／大橋秀雄
- ・技術社会の案内人：技術士会の自律に向けて／
比屋根 均
- ・情報セキュリティのステガノグラフィ／脇山正博
田中義人 田中 宏
- ・ヨウ素の製造と利用／海宝龍夫
- ・家庭用ガス消費機器の安全装置／後藤信之
- ・地球温暖化対策における太陽光発電システムの効
用／岡野庄太郎

[PE] 技術士12・2007

- ・知的財産は創造から始まる／中島 淳
- ・大学における技術者倫理教育の現状—大阪工大応
用化学科の場合—／棚橋一郎
- ・安心・安全とアンビエント・インテリジェンス・
センシング／渡辺嘉二郎
- ・子どもの安全／小田部譲
- ・ERM(全社的リスクマネジメント)の目的と今
後の展望／姫野桂一
- ・第27回地域産学官と技術士合同セミナー(大阪)
／石川浩次

編集後記

あけましておめでとうございます。

「技術士だより」も会員の皆様のご協力で発行から19年目を迎えることができました。振り返ってみますと「登録即入会」「会員増強」は毎年言いつづけられ、「環境」「情報」に関する内容は年を追う毎に増えてきております。

また最近では、「偽装」や「ものづくり」に関するご意見も数多く戴くようになりました。本号でも第7部会報告では、先人の宝である技術・産業遺産をテーマに勉強・見学会が行われています。これまで技術士会では余り話題にされなかったテーマが取り上げられるようになりました。これは、最近話題に上るようになった「世界遺産」「文化遺産」と合い通じるものがあるのではないのでしょうか。情報化が進み、ものづくりの味が薄れる昨今ですが、新年を機に、今一度私たちの仕事の中でも、偽りのない心のこもったものづくりを考えていきたいものです。

今年もよろしくお願いいたします。(棚町)

発行:(株)日本技術士会九州支部

〒812-0012 福岡市博多区博多駅中央街7-1
(シック博多駅前ビル204)

九州支部: ☎(092)432-4441

FAX(092)432-4443

E-mail: pekyushu@nifty.com

九州支部ホームページURL:

<http://homepage2.nifty.com/pekyushu/>

センター: ☎/FAX(092)432-4443

印刷:(株)川島弘文社